乳癌登録ﾚｼﾞﾒﾝ一覧

No.	ﾚｼﾞﾒﾝ名
0001	DTX40 biweekly
0002	DTX100 triweekly
0003	FEC 100
0004	Trastuzumab triweekly
0005	PTX+Trastuzumab weekly
0006	TC
0007	XT triweekly
0008	XT+Trastuzmab triweekly
0009	CMF
0010	DTX+Trastuzumab
0011	wPTX+Bevacizumab
0012	Eribulin
0013	Monthly CBDCA+CPT-11
0014	Nab-PTX triweekly
0015	DTX+Pertuzumab+Trastuzumab
0016	Pertuzumab+Trastuzumab
0017	カドサイラ単独療法
0018	EC療法
0019	weekly PTX(乳癌)
0020	Pertuzumab+Trastuzumab+Eribulin
0021	Pertuzumab+Trastuzumab+VNR
0022	Pertuzumab+Trastuzumab+wPTX
0023	Atezolizumab+nab-PTX

DTX40 biweekly

対象疾患	乳癌
投与間隔	2週1コース

催吐リスク	軽度（催吐性）リスク

○レジメン内容（※制吐薬（下記参照）等の内服薬が処方される事があります。）

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日 1	2	3	…	21					
RP.1		グラニセトロン	3mg	点滴静注	メイン	30分	○									
		デキサート	6.6mg													
RP.2		生理食塩液	250mL	点滴静注	メイン	60分	○									
	○	ドセタキセル	40mg/㎡	輸液ポンプ使用禁												
RP.3		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開	○									

DTX100 triweekly

対象疾患	乳癌
投与間隔	3週1コース

催吐リスク	軽度（催吐性）リスク

○レジメン内容（※制吐薬（下記参照）等の内服薬が処方される事があります。）

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日 1	2	3	…	21					
RP.1		グラニセトロン	3mg	点滴静注	メイン	30分	○									
		ファモチジン	20mg													
		デキサート	9.9mg													
RP.2		生理食塩液	500mL	点滴静注	メイン	90分	○									
	○	ドセタキセル	100mg/㎡	輸液ポンプ使用禁												
RP.3		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開	○									

FEC 100

対象疾患	乳癌
投与間隔	3週1コース

催吐リスク	高度（催吐性）リスク

○レジメン内容（※制吐薬（下記参照）等の内服薬が処方される事があります。）

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日 1	2	3	・・・	21					
RP.1		生理食塩液	100mL	点滴静注	メイン	30分	○									
		ファモチジン	20mg													
		デキサート	9.9mg													
RP.2		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開	○									
		パロノセトロン	0.75mg													
RP.3		生理食塩液	100mL	点滴静注	メイン	30分	○									
	○	エピルビシン	100mg/㎡	輸液ポンプ使用禁												
RP.4		生理食塩液	100mL	点滴静注	メイン	30分	○									
	○	エンドキサン	500mg/㎡													
RP.5		生理食塩液	100mL	点滴静注	メイン	30分	○									
	○	フルオロウラシル	500mg/㎡													
RP.6		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開	○									

<参考>高度催吐性リスクの注射抗がん薬に対する制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
	抗がん薬投与前				
アプレピタント（イメンドカプセル等）	125mg	80mg	80mg		
5-HT3受容体拮抗薬（グラニセトロン塩酸塩注射等）	◊				
デキサメタゾン（デカドロン注射液等）（デキサメタゾン錠等）	◊ (9.9mg)	8	8	8	8

●制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望まれる。

●各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。

Trastuzumab triweekly

対象疾患	乳癌
投与間隔	3週1コース

催吐リスク	最小度（催吐性）リスク

〇レジメン内容（※制吐薬（下記参照）等の内服薬が処方される事があります。）

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日 1	2	3	・・・	21					
RP.1		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	30分	〇									
RP.2		生理食塩液	250mL	点滴静注	メイン		〇									
	〇	トラスツズマブ		投与時間：初回:8mg/kg【90分】,2回目以降:6mg/kg【30分】												
RP.3		生理食塩液	100mL	点滴静注	メイン	全開	〇									

〈参考〉最小度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
	抗がん薬投与前				
	通常予防的な制吐療法は推奨されない。				

●制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望 まれる。

●各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。

PTX+Trastuzumab weekly

対象疾患	乳癌
投与間隔	4週1コース

催吐リスク	軽度（催吐性）リスク

○レジメン内容（※制吐薬（下記参照）等の内服薬が処方される事があります。）

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日 1	2	…	8	…	15	…	22	・・・	28
RP.1		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	15分	○			○		○				
		ファモチジン	20mg	インラインフィルター使用												
		デキサート	6.6mg													
		ポララミン	5mg													
RP.2		グラニセトロン	3mg	点滴静注	メイン	30分	○			○		○				
RP.3		5%ブドウ糖液	250mL	点滴静注	メイン	60分	○			○		○				
	○	パクリタキセル	80mg/㎡	輸液ポンプ使用禁												
RP.4		生理食塩液	250mL	点滴静注	メイン	90分	○			○		○		○		
	○	トラスツズマブ		投与時間：初回:4mg/kg【90分】,2回目以降:2mg/kg【30分】												
RP.5		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開	○			○		○		○		

<参考>軽度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
	抗がん薬投与前				
デキサメタゾン（デカドロン注射液等）	（6.6mg）				

●制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望まれる。

●各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。

TC

対象疾患	乳癌
投与間隔	3週1コース

催吐リスク	中等度（催吐性）リスク

○レジメン内容（※制吐薬（下記参照）等の内服薬が処方される事があります。）

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日 1	2	3	…	21					
RP.1		生理食塩液	100mL	点滴静注	メイン	30分	○									
		パロノセトロン	0.75mg													
		デキサート	9.9mg													
RP.2		生理食塩液	100mL	点滴静注	メイン	30分	○									
	○	エンドキサン	600mg/㎡													
RP.3		5%ブドウ糖液	250mL	点滴静注	メイン	60分	○									
	○	ドセタキセル	75mg/㎡	輸液ポンプ使用禁												
RP.4		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開	○									

XT triweekly

対象疾患	乳癌
投与間隔	3週1コース

催吐リスク	軽度（催吐性）リスク

○レジメン内容（※制吐薬（下記参照）等の内服薬が処方される事があります。）

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日 1	2	…	14		…		21		
RP.1		グラニセトロン	3mg	点滴静注	メイン	30分	○									
		ファモチジン	20mg													
		デキサート	9.9mg													
RP.2		生理食塩液	250mL	点滴静注	メイン	60分	○									
	○	ドセタキセル	60mg/㎡	輸液ポンプ使用禁												
RP.3		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開	○									
内服	○内服	カペシタビン	1250mg/㎡	経口		1日2回	←→				←→					
				Day1夕←→Day15朝				内服				休薬				

<参考>軽度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
	抗がん薬投与前				
デキサメタゾン（デカドロン注射液等）	（6.6mg）				

●制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望まれる。

●各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。

XT+Trastuzmab triweekly

対象疾患	乳癌
投与間隔	3週1コース

催吐リスク	軽度（催吐性）リスク

○レジメン内容（※制吐薬（下記参照）等の内服薬が処方される事があります。）

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日 1	2	…	14		…		21		
RP.1		生理食塩液	100mL	点滴静注	メイン	30分	○									
		パロノセトロン	0.75mg													
		ファモチジン	20mg													
		デキサート	9.9mg													
RP.2		生理食塩液	250mL	点滴静注	メイン	60分	○									
	○	ドセタキセル	60mg/㎡	輸液ポンプ使用禁												
RP.3		生理食塩液	250mL	点滴静注	メイン		○									
	○	トラスツズマブ		投与時間：初回:8mg/kg【90分】,2回目以降:6mg/kg【30分】												
RP.4		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開	○									
内服	○内服	カペシタビン	1250mg/㎡	経口		1日2回	←→				←→					
				Day1夕←→Day15朝				内服				休薬				

<参考>軽度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
	抗がん薬投与前				
デキサメタゾン（デカドロン注射液等）	（6.6mg）				

●制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望まれる。

●各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。

CMF

対象疾患	乳癌
投与間隔	4週1コース

催吐リスク	中等度（催吐性）リスク

○レジメン内容（※制吐薬（下記参照）等の内服薬が処方される事があります。）

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日 1	2	…	8	…	14		…		28
RP.1		グラニセトロン	3mg	点滴静注	メイン	30分	○			○						
		デキサート	6.6mg													
RP.2		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	20分	○			○						
	○	メソトレキセート	40mg/㎡													
RP.3		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	20分	○			○						
	○	フルオロウラシル	600mg/㎡													
RP.4		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	20分	○			○						
内服	○内服	エンドキサン錠		経口		1日1回	◀					▶	◀			▶
				1.5㎡未満 100mg/day、1.5㎡以上 150mg/day					内服					休薬		

<参考>中等度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
	抗がん薬投与前				
5-HT3受容体拮抗薬（グラニセトロン塩酸塩注射等）	◊				
デキサメタゾン（デカドロン注射液等）（デキサメタゾン錠等）	(9.9mg)	8	8	8	

※オキサリプラチン、イホスファミド、イリノテカン、メトトレキサートなど使用時は
アプレピタント（イメンドカプセル等）の使用を考慮する。

●制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望まれる。

●各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。

DTX+Trastuzumab

対象疾患	乳癌
投与間隔	3週1コース

催吐リスク	軽度（催吐性）リスク

○レジメン内容（※制吐薬（下記参照）等の内服薬が処方される事があります。）

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日 1	2	3	・・・	21					
RP.1		グラニセトロン	3mg	点滴静注	メイン	30分	○									
		デキサート	9.9mg													
RP.2		生理食塩液	500mL	点滴静注	メイン	90分	○									
	○	ドセタキセル	75mg/㎡	輸液ポンプ使用禁												
RP.3		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開	○									
RP.4		生理食塩液	250mL	点滴静注	メイン		○									
	○	トラスツズマブ		投与時間：初回:8mg/kg【90分】,2回目以降:6mg/kg【30分】												
RP.5		生理食塩液	100mL	点滴静注	メイン	全開	○									

<参考>軽度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
	抗がん薬投与前				
デキサメタゾン（デカドロン注射液等）	（6.6mg）				

●制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望 まれる。

●各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。

wPTX+Bevacizumab

対象疾患	乳癌
投与間隔	4週1コース

催吐リスク	軽度（催吐性）リスク

○レジメン内容（※制吐薬（下記参照）等の内服薬が処方される事があります。）

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日 1	2	…	8	…	15	・・・	28		
RP.1		生理食塩液	100mL	点滴静注	メイン	30分	○			○		○				
		ポララミン	5mg	インラインフィルター使用												
		ファモチジン	20mg													
		デキサート	6.6mg													
RP.2		5%ブドウ糖液	250mL	点滴静注	メイン	60分	○			○		○				
	○	パクリタキセル	80mg/㎡	輸液ポンプ使用禁												
RP.3		生理食塩液	100mL	点滴静注	メイン		○					○				
	○	アバスチン	10mg/kg	投与時間：初回90分,2回目60分,以後30分												
RP.4		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開	○			○		○				

〈参考〉軽度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
	抗がん薬投与前				
デキサメタゾン（デカドロン注射液等）	（6.6mg）				

●制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望まれる。

●各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。

Eribulin

対象疾患	乳癌
投与間隔	3週1コース

催吐リスク	軽度（催吐性）リスク

○レジメン内容（※制吐薬（下記参照）等の内服薬が処方される事があります。）

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日 1	2	3	・・・	21					
RP.1		生理食塩液	100mL	点滴静注	メイン	30分	○									
		デキサート	3.3mg													
RP.2		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開	○									
	○	ハラヴェン	1.4mg/㎡													
RP.3		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開	○									

〈参考〉軽度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
	抗がん薬投与前				
デキサメタゾン（デカドロン注射液等）	◊ (6.6mg)				

●制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望 まれる。

●各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。

Monthly CBDCA+CPT−11

対象疾患	乳癌
投与間隔	4週1コース

催吐リスク	中等度（催吐性）リスク

○レジメン内容（※制吐薬（下記参照）等の内服薬が処方される事があります。）

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日 1	2	…	8	…	15	・・・	28		
RP.1		生理食塩液	100mL	点滴静注	メイン	30分	○									
		ファモチジン	20mg													
		デキサート	3.3mg													
RP.2		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	5分	○			○		○				
		パロノセトロン	0.75mg													
RP.3		ソルデム3A	500mL	点滴静注	メイン	120分	○			○		○				
	○	イリノテカン	60mg/㎡													
RP.4		5%ブドウ糖液	250mL	点滴静注	メイン	60分	○									
	○	カルボプラチン	300mg/㎡													
RP.5		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	15分	○			○		○				

〈参考〉中等度催吐性リスク（カルボプラチン使用）に対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
	抗がん薬投与前				
アプレピタント（イメンドカプセル等）	125mg	80mg	80mg		
5-HT3受容体拮抗薬（グラニセトロン塩酸塩注射等）	◊				
デキサメタゾン（デカドロン注射液等）（デキサメタゾン錠等）	◊ (3.3mg)	4	4	4	

●制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望まれる。

●各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。

Nab-PTX triweekly

対象疾患	乳癌
投与間隔	3週1コース

催吐リスク	軽度（催吐性）リスク

○レジメン内容（※制吐薬（下記参照）等の内服薬が処方される事があります。）

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日 1	2	3	・・・	21					
RP.1		グラニセトロン	3mg	点滴静注	メイン	30分	○									
		デキサート	6.6mg	インラインフィルター付きルート使用不可												
RP.2		生理食塩液	100mL	点滴静注	メイン	30分	○									
	○	アブラキサン	260mg/㎡	輸液ポンプ使用禁												
RP.2		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開	○									

DTX+Pertuzumab+Trastuzumab

対象疾患	乳癌
投与間隔	3週1コース

催吐リスク	軽度（催吐性）リスク

○レジメン内容（※制吐薬（下記参照）等の内服薬が処方される事があります。）

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日 1	2	3	・・・	21					
RP.1		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	15分	○									
RP.2		生理食塩液	250mL	点滴静注	メイン		○									
	○	パージェタ		投与時間：初回:840mg/body【60分】,2回目以降:420mg/body【30分】												
RP.3		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開	○									
RP.4		生理食塩液	250mL	点滴静注	メイン		○									
	○	トラスツズマブ		投与時間：初回:8mg/kg【90分】,2回目以降:6mg/kg【30分】												
RP.5		グラニセトロン	3mg	点滴静注	メイン	30分	○									
		デキサート	6.6mg													
RP.6		生理食塩液	250mL	点滴静注	メイン	60分	○									
	○	ドセタキセル	75mg/㎡	輸液ポンプ使用禁												
RP.7		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開	○									

〈参考〉軽度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
	抗がん薬投与前				
デキサメタゾン（デカドロン注射液等）	（6.6mg）				

●制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望 まれる。

●各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。

Pertuzumab+Trastuzumab

対象疾患	乳癌
投与間隔	3週1コース

催吐リスク	最小度（催吐性）リスク

〇レジメン内容（※制吐薬（下記参照）等の内服薬が処方される事があります。）

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日 1	2	3	・・・	21					
RP.1		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	15分	〇									
RP.2		生理食塩液	250mL	点滴静注	メイン		〇									
	〇	パージェタ		投与時間：初回:840mg/body【60分】,2回目以降:420mg/body【30分】												
RP.3		生理食塩液	250mL	点滴静注	メイン		〇									
	〇	トラスツズマブ		投与時間：初回:8mg/kg【90分】,2回目以降:6mg/kg【30分】												
RP.4		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開	〇									

カドサイラ単独療法

対象疾患	乳癌
投与間隔	3週1コース

催吐リスク	軽度（催吐性）リスク

〇レジメン内容（※制吐薬（下記参照）等の内服薬が処方される事があります。）

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日 1	2	3	・・・	21					
RP.1		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	15分	〇									
				インラインフィルター使用												
RP.2		生理食塩液	250mL	点滴静注	メイン		〇									
	〇	カドサイラ	3.6mg/kg	投与時間：初回90分、2回目以降、30分												
RP.3		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開	〇									

EC療法

対象疾患	乳癌
投与間隔	3週1コース

催吐リスク	高度（催吐性）リスク

○レジメン内容（※制吐薬（下記参照）等の内服薬が処方される事があります。）

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日 1	2	3	・・・	21					
RP.1		生理食塩液	100mL	点滴静注	メイン	30分	○									
		ファモチジン	20mg													
		デキサート	9.9mg													
		パロノセトロン	0.75mg													
RP.2		生理食塩液	100mL	点滴静注	メイン	30分	○									
	○	エピルビシン	90mg/㎡													
RP.3		生理食塩液	100mL	点滴静注	メイン	30分	○									
	○	エンドキサン	600mg/㎡													
RP.4		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開	○									

weekly PTX(乳癌)

対象疾患	乳癌
投与間隔	1週1コース

催吐リスク	軽度(催吐性)リスク

○レジメン内容(※制吐薬(下記参照)等の内服薬が処方される事があります。)

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日 1	2	…	7						
RP.1		生理食塩液	100mL	点滴静注	メイン	30分	○									
		ポララミン	5mg	インラインフィルター使用												
		ファモチジン	20mg													
		デキサート	6.6mg													
RP.2		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	30分	○									
RP.3		5%ブドウ糖液	250mL	点滴静注	メイン	60分	○									
	○	パクリタキセル	80mg/㎡	輸液ポンプ使用禁												
RP.4		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開	○									

<参考>軽度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
	抗がん薬投与前				
デキサメタゾン (デカドロン注射液等)	(6.6mg)				

●制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望まれる。

●各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。

Pertuzumab+Trastuzumab+Eribulin

対象疾患	乳癌
投与間隔	3週1コース

催吐リスク	軽度（催吐性）リスク

○レジメン内容（※制吐薬（下記参照）等の内服薬が処方される事があります。）

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日 1	2	3	・・・	21					
RP.1		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	15分	○									
RP.2		生理食塩液	250mL	点滴静注	メイン		○									
	○	パージェタ		投与時間：初回:840mg/body【60分】,2回目以降:420mg/body【30分】												
RP.3		生理食塩液	250mL	点滴静注	メイン		○									
	○	トラスツズマブ		投与時間：初回:8mg/kg【90分】,2回目以降:6mg/kg【30分】												
RP.4		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	15分	○		○							
		デキサート	3.3mg													
RP.5		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	60分	○		○							
	○	ハラヴェン	1.4mg/㎡													
RP.6		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開	○		○							

〈参考〉軽度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
	抗がん薬投与前				
デキサメタゾン（デカドロン注射液等）	（6.6mg）				

●制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望 まれる。

●各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。

Pertuzumab+Trastuzumab+VNR

対象疾患	乳癌
投与間隔	3週1コース

催吐リスク	軽度（催吐性）リスク

○レジメン内容（※制吐薬（下記参照）等の内服薬が処方される事があります。）

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日 1	2	3	・・・	21					
RP.1		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	30分	○									
RP.2		生理食塩液	250mL	点滴静注	メイン		○									
	○	パージェタ		投与時間：初回:840mg/body【60分】,2回目以降:420mg/body【30分】												
RP.3		生理食塩液	250mL	点滴静注	メイン		○									
	○	トラスツズマブ		投与時間：初回:8mg/kg【90分】,2回目以降:6mg/kg【30分】												
RP.4		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	15分	○		○							
		デキサート	6.6mg													
RP.5		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開	○		○							
	○	ロゼウス	25mg/㎡													
RP.6		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開	○		○							

〈参考〉軽度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
	抗がん薬投与前				
デキサメタゾン（デカドロン注射液等）	（6.6mg）				

●制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望 まれる。

●各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。

Pertuzumab+Trastuzumab+wPTX

対象疾患	乳癌
投与間隔	3週1コース

催吐リスク	軽度（催吐性）リスク

○レジメン内容（※制吐薬（下記参照）等の内服薬が処方される事があります。）

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日 1	・・・	3	・・・	15	・・・	21			
RP.1		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	30分	○									
				インラインフィルター使用												
RP.2		生理食塩液	250mL	点滴静注	メイン		○									
	○	パージェタ		投与時間：初回:840mg/body【60分】,2回目以降:420mg/body【30分】												
RP.3		生理食塩液	250mL	点滴静注	メイン		○									
	○	トラスツズマブ		投与時間：初回:8mg/kg【90分】,2回目以降:6mg/kg【30分】												
RP.1		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	30分	○		○		○					
		ポララミン	5mg													
		ファモチジン	20mg													
		デキサート	6.6mg													
RP.2		グラニセトロン	3mg	点滴静注	メイン	30分	○		○		○					
RP.3		5%ブドウ糖液	250mL	点滴静注	メイン	60分	○		○		○					
	○	パクリタキセル	80mg/㎡	輸液ポンプ使用禁												
RP.4		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開	○		○		○					

〈参考〉軽度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
	抗がん薬投与前				
デキサメタゾン（デカドロン注射液等）	（6.6mg）				

●制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望まれる。

●各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。

Atezolizumab+nab-PTX

対象疾患	乳癌
投与間隔	4週1コース

催吐リスク	軽度（催吐性）リスク

○レジメン内容（※制吐薬（下記参照）等の内服薬が処方される事があります。）

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日 1	2	・・・	8	・・・	15	・・・	28		
RP.1		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	30分	○					○				
		デキサート	6.6mg	インラインフィルター使用												
RP.2		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	30分				○						
		デキサート	6.6mg													
RP.3		生理食塩液	250mL	点滴静注	メイン		○					○				
	○	テセントリク	840mg/body	投与時間：初回60分、2回目以降30分												
RP.4		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開	○					○				
RP.5		生理食塩液	50mL	点滴静注	側管	全開	○					○				
				フィルターより下の側管から投与												
RP.6		生理食塩液	50mL	点滴静注	側管	30分	○			○		○				
	○	アブラキサン	100mg/㎡	輸液ポンプ使用禁　インラインフィルター付きルート使用不可												
RP.7		生理食塩液	50mL	点滴静注	側管	全開	○			○		○				

〈参考〉軽度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日日
	抗がん薬投与前				
デキサメタゾン（デカドロン注射液等）	（6.6mg）				

●制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望 まれる。

●各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値